

【全体概要】

生産者の高齢化でスモモの産地規模が縮小する中、省力化につながる「ジョイント栽培」の技術確立を本県の栽培環境に応じて行い、既存産地以外にも普及させ、新たな産地づくりに取り組んだ。また、ジョイント栽培普及のため、苗木生産・花粉供給体制の構築を進め、作業負担軽減のため、収穫調製、パッケージング、販売までを一貫して行うシステムの活用を推進した。

生産体制・技術確立の概要

「樹体ジョイント仕立て」(以下、ジョイント栽培)

- 開発者 神奈川県農業技術センター
- 開発年 平成21年度

平成24年にナシ、ウメで特許取得

○本技術は、隣り合わせた樹の主枝を接ぎ木によって連結し集合樹に仕立てる方法で、スモモでは優良な側枝を早期に確保でき早期多収が可能。また、側枝を一定方向に配置するため直線的樹形となり、省力化につながる。

○本県での普及状況

ジョイント栽培導入面積2ha(全体の5%)



主な取組内容

【検討会の開催】

- 5月:ジョイント栽培のモデル産地の設置
- 9月、11月:ジョイント栽培の秋季管理およびせん定の検討
- 2月、3月:ジョイント栽培のジョイント実演(2か所)

※R4実績

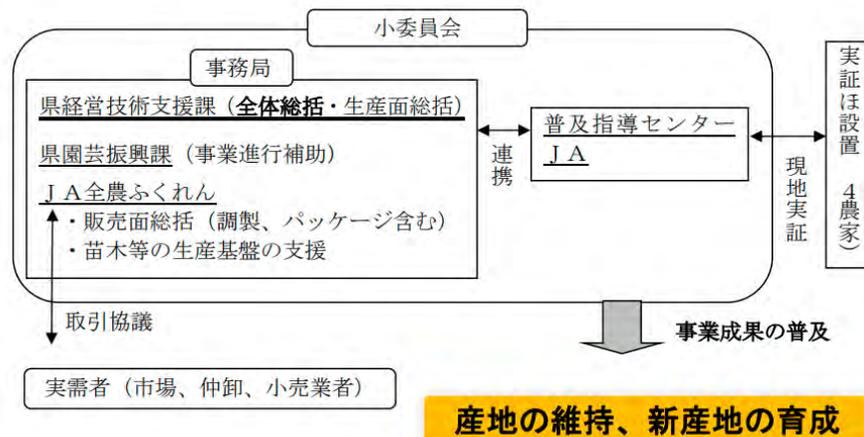
【現地実証園の設置】

- ・ジョイント後の枝管理における実証試験
せん定方法、側枝配置方法 2か所
- ・ジョイント方法における実証試験
平棚栽培によるジョイント法(慣行)、V字ジョイント法(新技術) 2か所

【先進地調査】・8月:実需者との意見交換、先進地調査

【栽培マニュアル案作成】・1～3月:実証結果等を基にマニュアル案作成

実施体制図



実績と今後の展開

【事業実績】

- ・ジョイント栽培面積の拡大
(R2:2ha ⇒R3:2.5ha⇒R4:5ha)

※R4実績

【今後の展開】

成果目標年度に、産地と実需者からの意見を取り入れながら、本県のスモモのジョイント栽培の技術を確立し、既存産地の維持はもちろん、新たな産地の育成を図る。